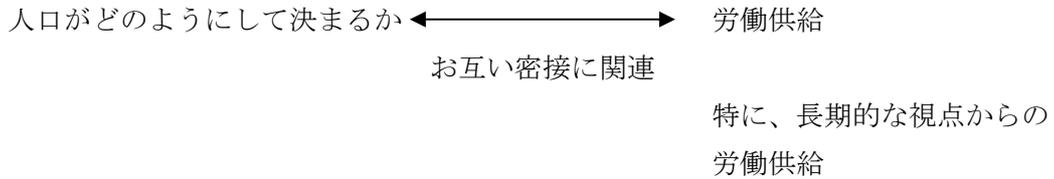


7. 家族の経済学のその他の話題：ファーティリティー（Borjas(2008)、3-6 Fertility の説明に従う）と家族の地域間労働移動モデル（大森(2008)、10.2）

7.1 ファーティリティー（日本語でどう訳したらよいか分からない）



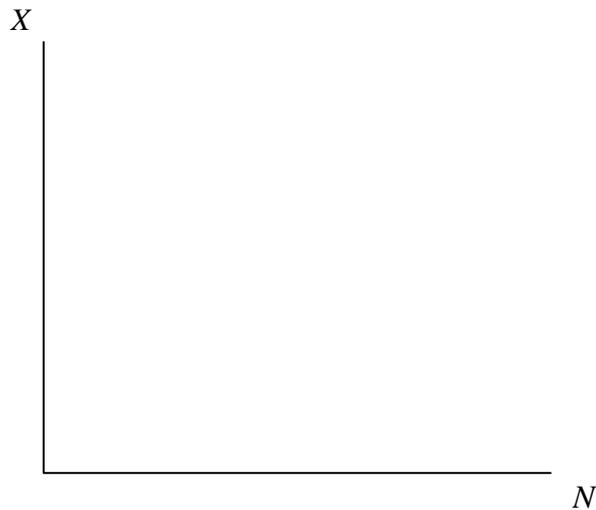
トーマス・マルサス『人口論』（1798年）
家計の所得と子供の数との正の相関を仮定。
しかし、現実には起きていることは、逆。

7.1.1 How Many Children Should the Household Have?

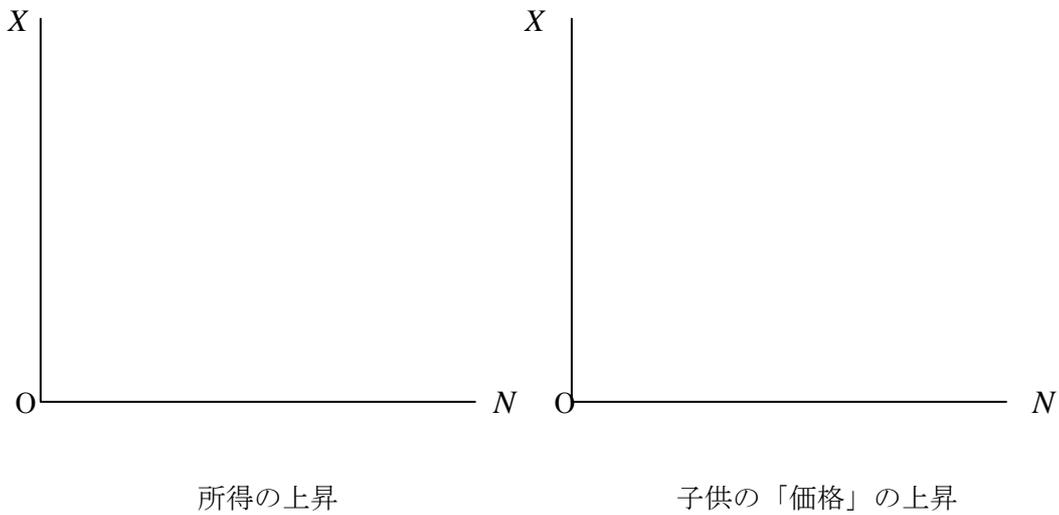
家計は、子供の数（ N ）と、消費する財の質（ X ）とを care about すると仮定。
両者とも、より多ければ効用が高くなるという意味で「財」。
→ 財が2つあるときの無差別曲線

家計の所得を Y
子供を一人持つことの「価格」を p_N
その他の財の価格を p_X

As everyone who has a child quickly discovers, children are an extremely expensive commodity. Also, a “time-intensive” commodity.



7.1.2 How Do Income and Prices Influence the Household's Fertility?



7.1.3 Does Fertility Really Respond to Economic Variables?

世界各国の事情。

7.2 地域間労働移動

7.2.1 現在価値（大森(2008)、9.2.2）

動学分析で必須の概念。

異なる時点で発生する便益と費用を、現時点で評価する。

現在価値：現在の貨幣単位による価値

1年後の X_1 円を割引いて現在の価値（ $PV(X_1)$ ）として評価
ある個人の割引率 ρ は

$$PV(X_1) = \frac{X_1}{1 + \rho}$$

として与えられる。

現在志向度の高い人は、高い値の ρ を持つ。

$$PV(X_1)_A < PV(X_1)_B$$
$$\Leftrightarrow \frac{X_1}{1 + \rho_A} < \frac{X_1}{1 + \rho_B}$$

もし、夫と妻が、家族全体の純便益を考慮する場合、
 $\Delta NPV_H + \Delta NPV_W > 0$ のとき、家族（夫と妻）は一緒に移動。

下図のように、夫と妻が一緒に移動する領域が増える。

